

## JACET52 国際大会全体シンポジウム

### Session 1 「国内関連学会代表者からの英語教育への提言」趣旨

提案者：大津 由紀雄（日本英語学会；明海大学）

佐々木 徹（日本英文学会；京都大学）

永野 和男（日本教育工学会；聖心女子大学）

山内 ひさ子（大学英語教育学会；長崎県立大学）

司会：森住 衛（大学英語教育学会；桜美林大学）

近年の急速な国際化にあつて、外国語教育、とりわけ、英語教育に対する期待はますます大きくなっている。この要請の主たるものは、通用度が高い外部の資格試験の大学入学試験への利用や英語母語話者の教員の増強など英語教育が直接的に「役に立つ」ための実用論に基づくものであるが、一方で、英語教育が人格形成や恒久平和などの点で「ためになる」という本来の外国語教育がもつ教養論も看過してはならない。このような状況にあつて、英語教育をとりまく関連学会・関連研究分野のうち最も影響が大きいと思われる 3 つの学会の代表の方をお招きし、大学英語教育をはじめとして日本の英語教育全般に関して要望や助言をいただく。また、合わせて、大学英語教育学会と共同開発や共同企画をおこなう場合にどのような連携や協力があるかを提言していただく。

3 つの学会から登壇いただくのは、五十音順に、大津由紀雄氏（日本英語学会元副会長）、佐々木徹氏（日本英文学会会長）、永野和男氏（日本教育工学会元会長）である。3 氏には、上記の趣旨に応じて、自由に発言していただくが、可能であれば、以下の点にも触れていただければと願っている。大津氏には、英語学・言語学の見地から、英語教育が今後いかにあるべきかを論じていただければありがたい。特に、ことばの使い方が、コミュニケーションの強さ・やさしさ・怖さとどのように関係しているか、適切なことばの選択が個や社会をどれだけ救っているなどに触れていただきたい。佐々木氏には、人間の精神や存在の根幹としての文学が、英語を使ったコミュニケーションにどのように表れてくるか、英語教科書の題材は — 読み物も会話も — いかにあるべきかなどに触れていただきたい。さらに、「英語教育における文学の復権はあり得るか」も論点になるかもしれない。永野氏には、ICT をはじめとする情報処理や教育工学が、これまで格段の進歩・発展を遂げて、どのように言語教育にも寄与貢献しているかを概観していただくともに、英語教育に関して、その利用のすばらしさと、利用に際して留意しなければいけないことに言及していただきたい。一方、主催者側として山内ひさ子氏（大学英語教育学会副会長）には、まず、3 つの団体と大学英語教育学会の共同開発や共同企画として、「グローバル人材育成」に焦点をあて、文科省・厚労省・企業の観点を解説しながら、論じていただく。次に、当日の 3 団体の提案を受けて、大学英語教育学会として実現の可能性などにも触れていただければと考えている。なお、4 氏とも各団体の代表という形をとっているが、発言内容は、必ずしも学会決定のものではなく、むしろ、個人の見解としていただいて結構である。

最後に、シンポジウムの進行であるが、まず、司会者による登壇者の紹介や趣旨説明（10 分）があり、次に、4 人の登壇者の提案（約 15 分ずつ）をいただき、その後、登壇者同士および会場との質疑応答（約 35 分）を行い、最後に、登壇者の一言（各 2 分計 8 分）と司会者のまとめ（7 分）を予定している。質疑応答の時間を多めに割いてみているが、全体として活発な「ことばの饗宴」にしたい。

## シンポジウム 1 (Biodata)

大津 由紀雄 (日本英語学会 ; 明海大学)

Yukio Otsu is professor of psycholinguistics at Meikai University, Chiba and professor emeritus at Keio University, Tokyo. In addition to his academic interest in the cognitive science of language, L1 acquisition in particular, he has been extensively involved in the betterment of English education in Japan

佐々木 徹 (日本英文学会 ; 京都大学)

Toru Sasaki, professor of English Literature at Kyoto University, is president of the English Literary Society of Japan. His publications include an edition of Hardy's *The Hand of Ethelberta* (Dent), contributions to *Oxford Reader's Companion to Hardy and Charles Dickens in Context* (CUP), and a translation of Dickens' *Great Expectations*.

永野 和男 (日本教育工学会 ; 聖心女子大学)

Kazuo NAGANO

Professor, University of the Sacred Heart Tokyo. Director, Multimedia Center for Active Learning. President of JSET. His research fields are curriculum development, design and development of computer application system for students. He has been several committees' member for the political decision making for ICT in education since 1990s. He drew up the ground design for the ICT curriculum which is conducted in Japan.

山内 ひさ子 (大学英語教育学会 ; 長崎県立大学)

Hisako Yamauchi, Ph. D. is a professor of English at the University of Nagasaki, Siebold. Her specialties include ESP, English communication, intercultural communication and phonetics. She is currently serving for JACET as a vice president. She is one of the editors of ESP in the 21<sup>st</sup> Century, Vol 4 of A Series of Studies on English Education.

森住 衛 (大学英語教育学会 ; 桜美林大学)

MORIZUMI Mamoru is a professor of Obirin (or J. F. Oberlin) University and a professor emeritus of Osaka University. He was the immediate ex-president of JACET and is currently the president of JALP (Japan Association for Language Policy). His main interests are language and culture education and foreign language policy.